事例 15　「春日奥山古事の森」の普及啓発イベントの開催

（近畿中国森林管理局　奈良森林管理事務所）

・奈良県奈良市 地獄谷（じごくだに）国有林
・（左）枝打ち体験説明の様子（令和５（2023）年 11 月）
　（右）イベント参加者による枝打ち体験の様子（令和５（2023）年 11 月）

奈良森林管理事務所では、歴史的木造建築物の修復に必要な大径長尺材を確保するため、ヒノキを植栽して 200～400 年をかけ育成することを目的として、「春日奥山古事の森育成協議会」と「春日奥山古事の森」協定を締結し、森林整備や普及啓発などに取り組んでいます。

世界文化遺産「春日山原始林」に隣接する地獄谷国有林において、平成 22(2010)年度から定期的に普及啓発イベントを開催しており、令和 5(2023)年 11 月 7 日には、通算 12 回目となる普及啓発イベントを開催しました。当日は一般応募者及び協議会関係者等 15 名が参加し、「春日奥山古事の森」設定の目的や意義の説明を受けた後、同所職員の指導の下、ヒノキの枝打ちを体験しました。その後、当該国有林内に所在する春日石窟仏及び地獄谷石窟仏を見学しました。

参加者からは、「森林整備体験では、将来の森づくりの一助を担う枝打ち体験ができたこと、 また、奈良・平安時代から伝わる石仏を間近に見学でき、とても有意義なイベントだった。」との声がありました。

当該イベントの参加者は、延べ 300 名を超えており、引き続き、森林と木の文化との関わりの重要性について、理解の醸成に努めていきます。